

## 望ましい聴取の例

【子】 「先生、あのね」

【先生】 「どうした？」

【子】 「～された」

【先生】 「誰がしたの？」

【子】 「××」 (加害者)

【先生】 「誰にしたの？」

【子】 「私に」

【先生】 「そうか、よく話してくれたね 一緒に考えようね」

ここまで聴取できたら、子どもの答えだけでなく、先生の質問も含めて記録し、通報、通告をお願いします。

### 聴取のポイント

- ・ 子どもに語ってもらうにとどめ、仮説は提示しない
- ・ 同じ質問を繰り返さない
- ・ 子どもの言葉を言い換えない (パチンした→叩いた)
- ・ 「はい・いいえ」で答えられる質問を避ける
- ・ 「いつ？」や回数、頻度を聞き出そうとしない

教育機関向け

## 児童・生徒から被害を打ち明けられたら

### 司法面接を見据えた初期聴取



## 良い発問・悪い発問の例

### 子どもが負傷している場合

- × ほっぺたが腫れているけど、誰かに叩かれたの？
- ほっぺた、どうした？

### 子どもから「エッチなことされた」と相談を受けた場合

- × エッチなことされたって、胸とかお尻とか触られたの？
- エッチなことされたって教えてくれたけど、そのこと全部教えて

### 他の児童から対象の児童が虐待されているとの情報を得た場合

- × あなたが虐待されているって聞いたけど、本当？
- おうちで何か心配なことがある？ (第三者からの情報を伝えない聞き方を)

### 登校途中、おじさんにお尻触られたと相談された場合

- × おじさんって、何歳くらい？ メガネとかしてなかった？
- そのおじさんってどんな人だった？ どんなことでもいいから教えて

## 不適切な発言の例

- ・ 誰にも言わないからお話して (守れない約束をしない)  
「誰にも言わないなら話す」と言われたら、「〇〇さんが安心して勉強できる (暮らせる) ようにするのが先生たちの仕事だよ」「どんなことでも話してね」等と声掛けする。
- ・ 話してくれないと先生困るな。(子どもを責める言葉を使わない)

愛知県警察本部 少年課  
名古屋地方検察庁 刑事部

## 司法面接とは

平成 27 年から、検察庁・警察・児童相談所では三機関が連携して、児童虐待などの子どもが被害となる事件を認知した場合

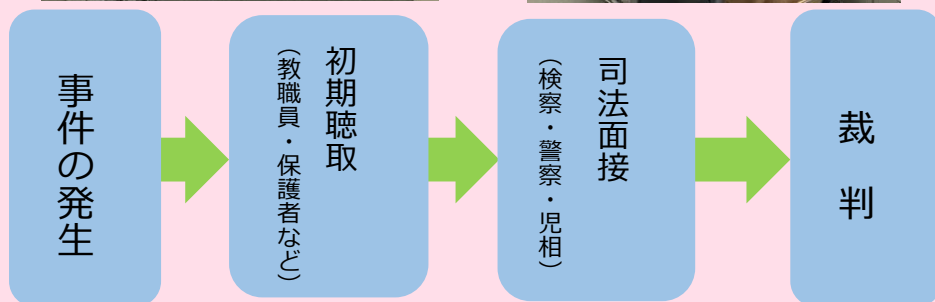
- 聞き取りの回数を減らして子どもの負担を減らす
- 暗示や誘導をしないなどの聴取技法を使用して供述の汚染を防ぐ

ためにトレーニングを受けた三機関の代表者 1 名が録画しながら聞き取りを行う「司法面接」を行っています。（代表者聴取、協同面接とも言います）

面接室



モニタールーム



## 法改正で、初期聴取のあり方がより重視されます

令和 5 年、刑事訴訟法の一部が改正され、「司法面接」の録画データが、法廷での子ども自身の証言と同様に扱われ得るようになりました。ただし「司法面接」に至るまでの状況（初期聴取）等から相当と認められる場合に限られるため、初期聴取がどのように行われたかが重要です（刑事訴訟法第 321 条の 3）。

## 聴取の方法が良くないと

初期聴取で、暗示や誘導等の疑われる聞き取りが行われると「司法面接」でせっかく子どもが被害を話しても、不適切な初期聴取の影響を受けている可能性があるとして信用性に疑いを差し挟まれかねず、刑事事件として扱えなかったり不起訴や無罪になったりすることがあり、更に子どもが傷つく可能性があります。

## 初期聴取に際してのお願い

学校は、子どもにとって、とても大事な場所。信頼する先生、安心できる先生に事件の事などを打ち明けることがよくあります。この時の対応が、その後の子どもの安全に大きく貢献します。最小限の聞き取りで、司法・福祉の専門家につないでください。子どもを守る輪を、一緒に作りましょう。

### ☑ 速やかな通告・通報を（最小限の初期聴取を）

何らかの被害が疑われる場合は、「誰が、誰に、何をした」程度の簡単な聞き取りにとどめ、児童虐待が疑われる場合は児童相談所へ、その他の被害であれば警察へ通告・通報をお願いします。司法・福祉につないだ後は、自然に温かく子どもを見守ってください。通報・通告の後、更に子どもが話をしたときは、「大事なことから（司法・福祉の担当者）にお話ししよう」などと励ましてください。

### ☑ 教職員の方に証人出廷の可能性も（できる限り正確な記録を）

今後、裁判において、子どもがどのように最初の報告をしたのか確認するため、教職員の方が証人出廷を求められることも予想されます。裁判では子どもがどの機会に話したのか、どんな質問に対して子どもがどう答えたかがとても重要です。子どもの言葉や先生が質問した言葉、子どもの様子をスマートフォン等で録音するか、難しければメモするなど、できる限り正確に記録するよう、お願いします。

## 子どもの特性に配慮した初期聴取

子どもは、被暗示性、被誘導性、迎合性が高いため、聴取の方法が良くないと、記憶とは異なる話をしてしまったり、子どもの記憶そのものが変わってしまったたりすることがあります。そのため、初期聴取では

- ☑ 子どもは、大人、特に先生など権威性の高い人に迎合しやすい
- ☑ 子どもは、大人に対して「わからない」「知らない」と言いにくい
- ☑ 子どもは、何度も同じ質問をすると答えが変わってしまいがち

などの子どもの特性に注意しつつ

**Point1** 暗示や誘導を与えない質問を使って

**Point2** 「誰が、誰に、何をした」程度の簡単な聴取

をしていただくようお願いします。